



注意が必要な動物からの感染症



SFTS (重症熱性血小板減少症候群)

主に感染マダニに咬まれて感染しますが、発症した犬や猫の体液からも感染することが報告されています。

・動物病院で犬や猫のマダニの駆除をしましょう!



厚生労働省ホームページより
「獣医・保健衛生関係者向け」
感染情報提供サイト



狂犬病

日本では、狂犬病予防対策

・飼い犬の自治体への登録

・毎年1回の狂犬病予防注射

の徹底により、1957年を最後にヒト、動物ともに国内で感染した例はありませんが、世界のほとんどの地域で発生しており、死者は年間6万人といわれています。



厚生労働省ホームページより
「狂犬病」

ライム病

感染マダニに咬まれて感染します。

・潜伏期 3〜32

日間

・マダニに咬まれた部位に特徴的な「遊走性紅斑」出現

・筋肉痛、頭痛、発熱や全身倦怠感などの症状を



国立感染症研究所
ホームページより
「感染症情報提供サイト」

E型肝炎

野生鳥獣類(ジビエ)を加熱しないで、生肉を食べることにより感染します。まれに、食用豚肉を加熱不十分で食べることで感染することがあります。

・潜伏期間 6週間
・無症状の場合が多い
・症状:発熱、悪心、腹痛等の消化器症状ほか



厚生労働省ホームページより
「E型肝炎(E Hepatitis E)」



動物からヒトに感染する病気

動物由来感染症

を知っていますか?



厚生労働省ホームページより
「動物由来感染症」

※動物由来感染症には

ヒトも動物も発症するもの

動物は無症状でヒトだけが発症するもの

など、病原体により様々なものがあります。

サルモネラ症

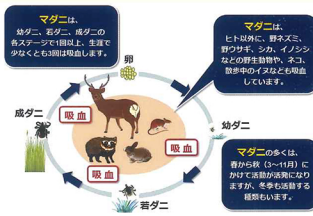
通常はサルモネラ属菌に汚染された食品により感染しますが、は虫類(カメなど)などの動物との接触から感染することがあります。

・症状:発熱、下痢、腹痛などの胃腸炎症状のほか、まれに、菌血症、敗血症、髄膜炎など重症化し死亡することもあります。



国立感染症研究所
ホームページより
「感染症情報提供サイト」

マダニの生活環



マダニに咬まれないポイント

- ①肌の露出を少なくする
⇒ 帽子、手袋を着用し、首にタオルを巻く
- ②長袖、長ズボンを着用する
⇒ シャツの袖口は手袋の中、シャツの裾はズボンの中、ズボンの裾は靴下や長靴の中
- ③足を完全に覆う靴をはく
⇒ サンドルなどは避ける
- ④明るい色の服を着る



国立感染症研究所
ホームページ
「感染症情報提供サイト」

●感染を防ぐために日常生活で注意してほしいこと!

○ 過剰な触れ合いは控えましょう!

細菌やウイルスなどが動物の口の中にいることがあるので、口移しで食べ物を与えたり、スプーンや箸を共有するのはやめましょう。



○ 動物に触ったら、必ず手を洗いましょう!

動物は、ヒトに病気を起こす病原体を持っていたり、毛にカビの菌糸や寄生虫の卵などがついていたりすることがあります。



○ 動物の身の回りは清潔に! 糞尿は速やかに処理しましょう!

ブラッシングや爪切りなど、こまめな手入れや寝床も清潔にしておきましょう。また、糞中で病原体が増殖したり、糞尿が乾燥して中の病原体が空気中へ漂うことがあります。



○ 室内で鳥を飼養する時は、換気を心がけましょう!

羽毛や乾燥した排泄物、塵埃(じんあい)などが室内に充満しやすくなります。ケージやその周りの清掃のほか、定期的な換気に努めましょう。

